

森里川海からはじめる地域づくりシンポジウム
～「地域循環共生圏」の創造に向けて～

森里川海からはじめる地域づくり

～地域循環共生圏構築の手引き～

環境省自然環境局
自然環境計画課



この手引きの目的

- ◆ 森里川海の資源を生かした「地域循環共生圏」の基本的な考え方、構築を進めるために必要な視点、知識、プロセス、事例等を紹介しています。
- ◆ 「地域循環共生圏」の構築に向けた取組を実施しようとしている皆さんが、手引きに沿って検討を進めていくことで、その一歩を踏み出せる内容を目指しています。
- ◆ 各地で「地域循環共生圏」の構築に向けた取組が広がることで、森里川海とそのつながりの恵みを賢く引き出す持続可能な社会が形成されることを期待しています。

手引きの編集方針

- ◆プロジェクトを進めるために大切な3本の柱（仕組み）を丁寧に解説
 - プラットフォームづくり
 - 経済的な仕組みづくり
 - 人材育成
- ◆作業をしながら実践的にプロジェクトの検討が進められるワークシートを掲載
- ◆具体の取組みイメージや苦労点がわかるよう、モデル10地域の事例を紹介

手引きの構成と主な内容

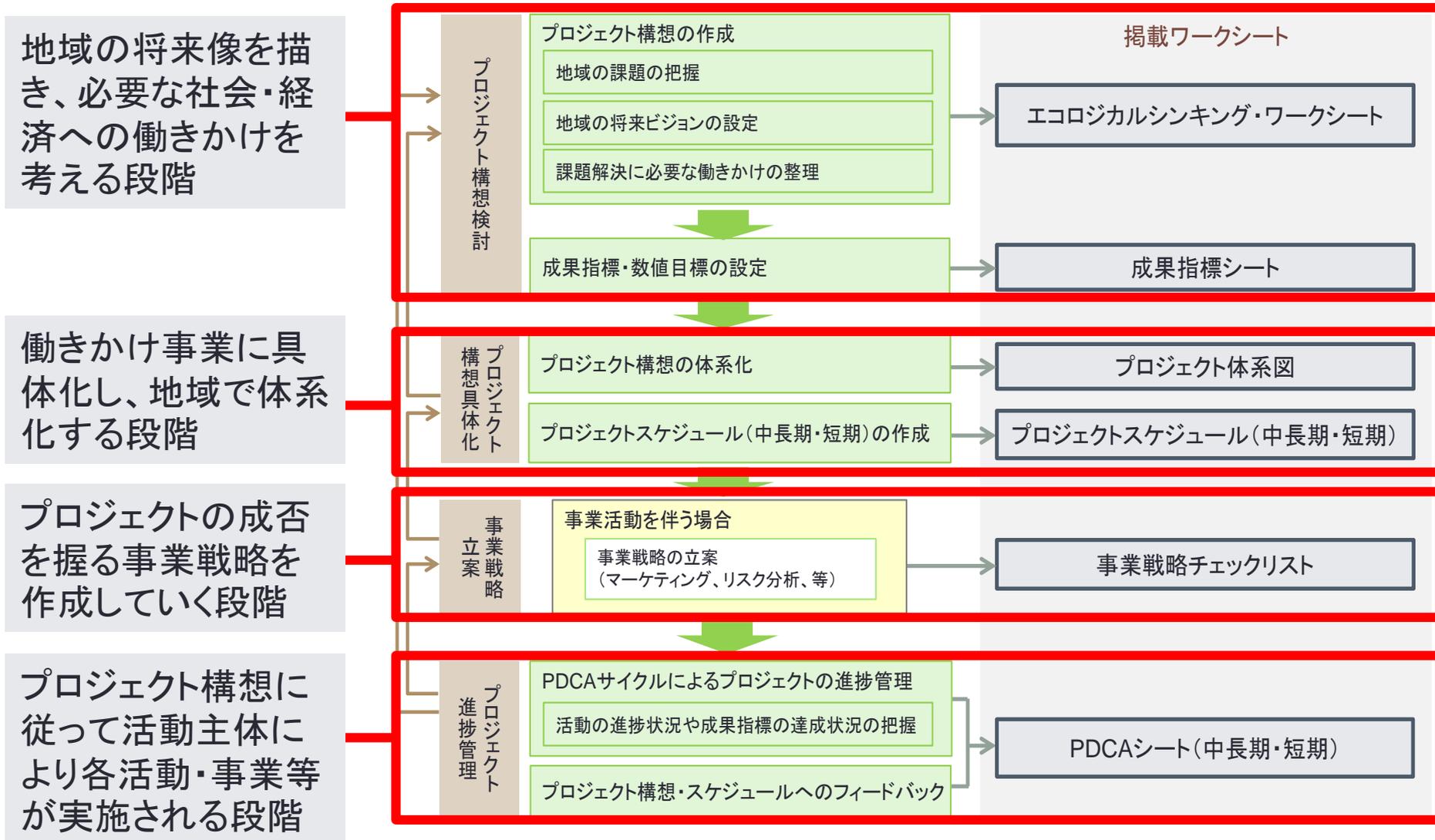
	項目	内容
理念編	1. 地域循環共生圏構築の手引き	本手引きの目的、対象、構成について説明します。
	2. 地域循環共生圏が目指す社会とアプローチ	地域循環共生圏の基本的な考え方や構築のメリット、アプローチ、重要な視点について解説します。
	3. プロジェクトの進め方	プロジェクトを進める代表的なプロセスについて解説します。
実践編	4.1 地域の将来ビジョンを描く（プロジェクト構想の検討）	「エコロジカルシンキング・ワークシート」を活用して、地域の将来ビジョンを描くとともにプロジェクト構想を作成する手順やポイントを解説します。
	4.2 プロジェクトを推進する3つの柱（仕組み）を考えよう	プロジェクト推進に必要な3つの柱（プラットフォームづくり、経済的仕組みづくり、人材育成）について、基本的な考え方、取組のポイント、取組事例を解説します。
	4.3 プロジェクト構想の具体化	プロジェクト構想を具体化するため、目標や働きかけを体系的に図示する手法や中長期・短期のスケジュールを作成する手法を解説します。
	4.4 プロジェクトにおける事業戦略の立案	プロジェクトの成否を握る「事業戦略」の検討の手法及びポイントを解説します。
	4.5 プロジェクトの進捗管理（PDCAサイクルの構築）	PDCAサイクルの活用によるプロジェクト全体の進捗管理・フィードバックの手法やポイントについて解説します。
	5. 事例集	全国10地域の取組事例を個票形式で紹介します。

地域循環共生圏が目指す社会とアプローチ

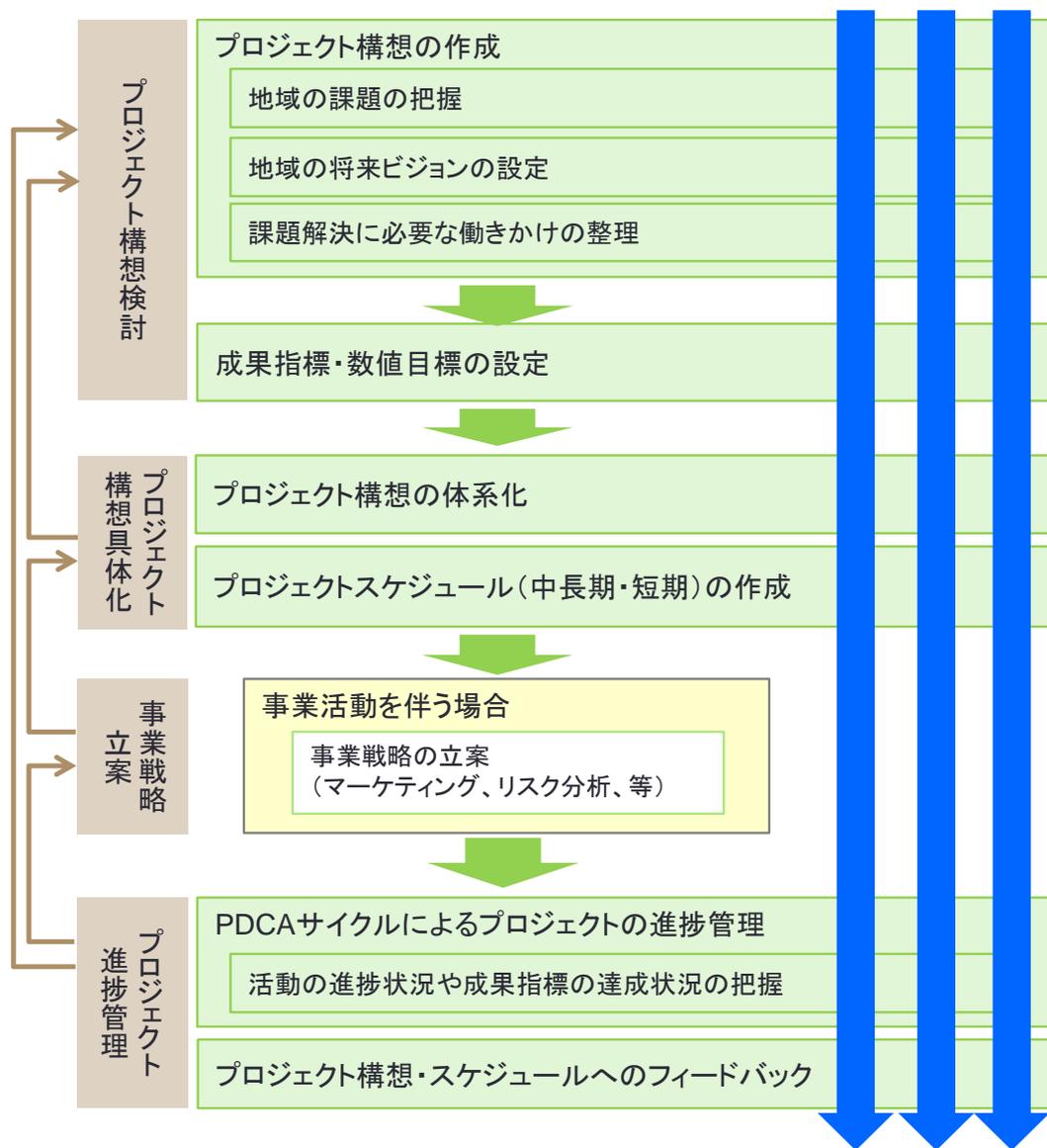


- 社会・経済に働きかけて環境の課題を解決する
- 低炭素社会・循環型社会の観点を盛り込む
- 森里川海の将来ビジョンを共有し、パートナーシップで取り組む
- ビジネスの視点は不可欠
- **地域循環共生圏でSDGsを達成**

プロジェクトの進め方



プロジェクトを推進する3つの柱（仕組み）



プラットフォーム
づくり

自立のための
経済的仕組み
づくり

人材育成

◆プラットフォームづくり



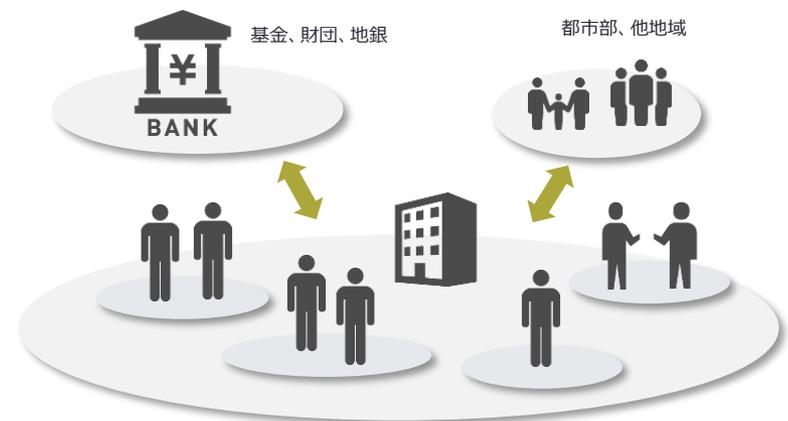
プラットフォームで行うこと

- ① 課題を共有し、環境・社会・経済の観点から地域の将来ビジョンを描く。
- ② 成果と達成指数（KPI）を話し合って共有する。
- ③ 各取組の学びあいと連携を考える。
- ④ 取組状況を共有し、見直す。
- ⑤ 必要に応じて、資金獲得等の機能を追加する。

◆プラットフォームづくり

- 物事の見方が違う、専門が違う、扱う範囲が違う、使えるリソースが違うという「違い」を活かすことが大切
- お互いの違いを認めあい、自分だけでは見えないこと、できないことを託しあえる関係を築きましょう。

- 地場産品を生産されている方
- 地域で商業を営まれている方
- 観光関係の仕事に従事されている方
- 地域の企業
- 地域の金融機関
- 地域の新聞社やテレビ局
- 地域の自然環境等の専門家
- 大学
- 地域外の企業
- 地域の外との橋渡しとなる人や組織
- NPO、NGO
- 行政機関



◆ 自立のための経済的仕組みづくり

地域の資源を持続的に活用し、
経済がまわって環境がよくなる
循環を作ろう！

- 再生可能エネルギーの地産地消、外部への販売
- 地域ブランドの向上による地場産品等の高付加価値可
- 自然資源を活かした学びと体験の場づくり

地域の自然資源を見直そう

余っている資源をうまく活用できないか

- ・ 里山の木竹、落ち葉、湿地のカヤ・ヨシ、
- ・ 野生鳥獣、
- ・ 家畜ふん尿・食品残渣
- ・ 使われていない古民家、
- ・ 知られていない風景

減っている資源をうまく回復できないか

- ・ 伝統的な農林水産業、伝統品種、
- ・ 伝統的な食、地酒、織物、工芸品、
- ・ 水鳥、
- ・ 魚や貝、
- ・ 野の花、

かつての資源利用から活用手法を考えてみる

- ・ 里山の木竹、落ち葉→薪炭、緑肥、竹細工→野の花の回復、
- ・ 湿地のカヤ・ヨシ→屋根材（古民家修復）、草蓑、カバン、
- ・ 野生鳥獣→食用、革細工→野の花の回復、
- ・ 循環・共生型の農業→緑肥の利用、伝統野菜の復活、水鳥、魚や貝の回復

あたらしい技術や発想をプラスしてみる

- ・ 再生可能エネルギー、地域エネルギー会社、
- ・ Society5.0、ネットワーク、Eコマース、
- ・ デザイン、加工技術（CLT）
- ・ 環境配慮のシンボリ化、物語化、認証、
- ・ インバウンド、

持続的な経済的仕組みを取り入れて、循環の輪を作る

- ・ → 再生可能エネルギーの地産地消、外部への販売、
- ・ → 地域ブランドの向上による地場産品等の高付加価値化、
- ・ → 自然資源を活かした学びと体験の場づくり

自然資源と経済
生産者と消費者
域内・域外の交流

事業の立ち上げ資金の確保

- → 融資や出資を受けることを念頭に、補助金・助成金、クラウドファンディング、ローカルファンドなどを活用して立ち上げ、
- → いくら必要なかを明確に、共感を得られる方法で、段階に応じて資金を確保、

活動資金の確保

- → 補助金・助成金、スポンサー、出資、クラウドファンディング、ローカルファンド、募金・寄付、会員制度、モノやコトの販売による収入など、

◆ 自立のための経済的仕組みづくり

- 近年は、ESG投資やグリーンボンドなど、環境へ配慮や社会課題の解決に着目した出資が注目！投資を受けることを目指したい！
- でも、環境や社会の課題の解決につながるようなソーシャルビジネスは収支が均衡し、出資や融資を受けることはまだまだ難しい

◎ 事業の立ち上げ資金を確保

- ① 補助金、助成金
- ② クラウドファンディング
- ③ ローカルファンド など

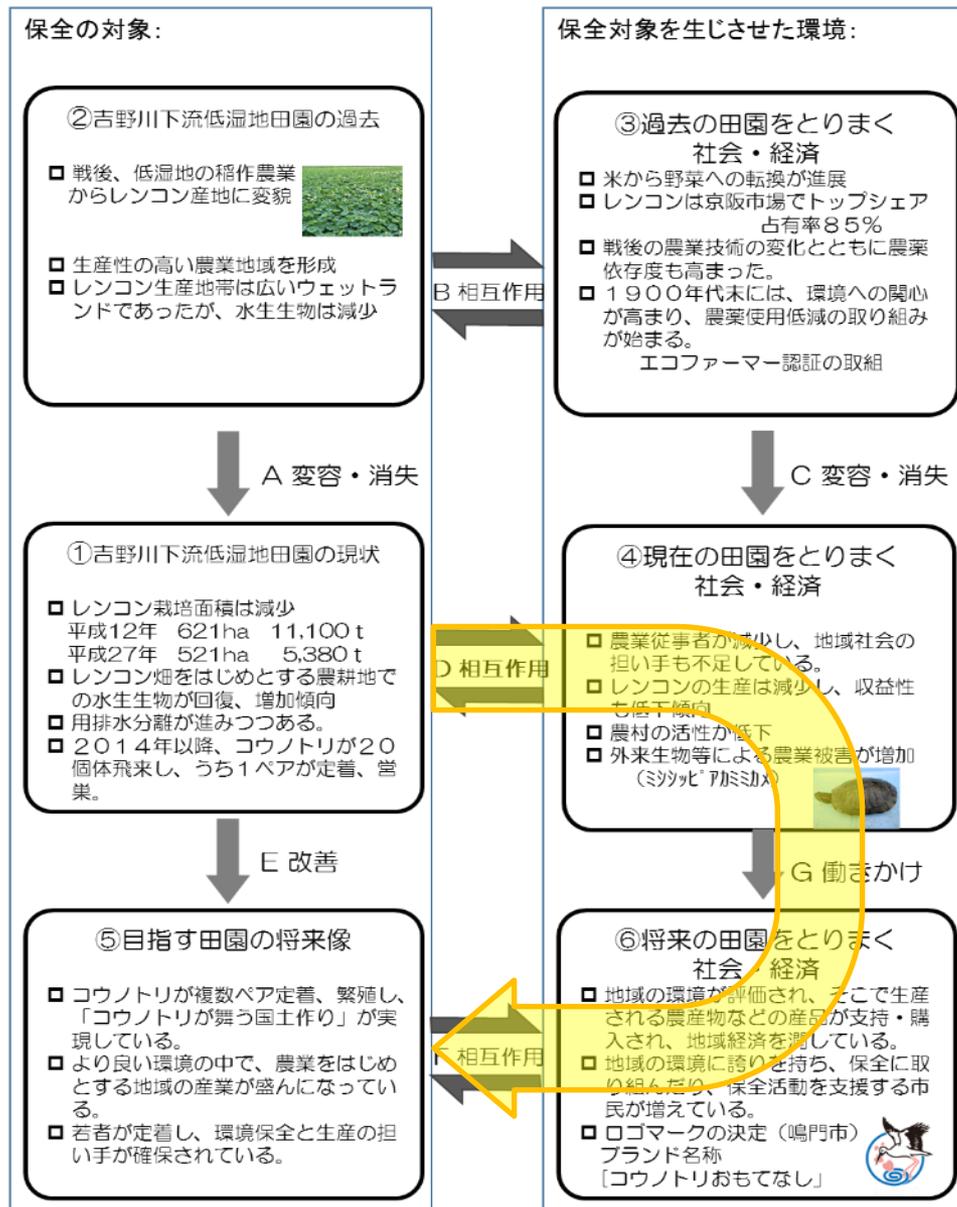
◎ プラットフォームの運営資金を確保

- ① 募金・寄付（ふるさと納税等）
- ② 会員制度（会員会費、ポイント制度、）
- ③ スポンサー（ネーミングライツ、オーナー制度等）
- ④ モノやコトの販売による収入 など

◆人材育成

- ①人材の発掘 →まずはマネジメント人材候補を探す。地域のキーパーソンに仲間になってもらえるとよい。
- ②人材の育成 →OFF-JTとOJTをうまく組み合わせる。既存のテキストや研修会も有効に活用する。
- ③人材の確保 →地域外の人材や大学等の機関、女性、若者など、多様な人材を確保。副業やダブルワークといった新たな働き方を実践している方も巻き込む。

【エコロジカルシンキング・ワークシート】



- 過去から現在までの地域の森里川海と社会・経済との相互作用とその変化を整理
- それに基づき、めざす地域の森里川海と社会・経済の将来ビジョンを描く
- 将来ビジョンの実現のために、どんな働きかけが必要か考える

【成果指標シート】

- 将来ビジョンに近づいていることをみんなで確認するために、森里川海と社会・経済に関する具体的な成果指標を考える。
- 成果指標を「いつまでに」「どの程度」変化させるのか、数値目標を設定する。
- SDGsと結びつけて考えることが大事



【地域の将来ビジョン（森里川海・環境）】
 ▶ コウノトリが複数ペア定着、繁殖し、生物多様性の厚みが増し、「コウノトリが舞う国土作り」が実現している。

【地域の将来ビジョン（社会・経済）】
 ▶ 地域の上り良い環境の中で、農業をはじめとする地域の産業が盛んになっている。
 ▶ 地域の環境が評価され、そこで生産される農産物などの産品が指示・購入され、地域経済を潤している。
 ▶ 農産物だけでなく、関連商品、観光により、地域経済が活性化。
 ▶ れんこん及びれんこん生産の価値の理解者やファンが増え、将来の消費が確保される。

1. 森里川海・環境に関する成果指標

大分類	選択項目	① 概念	② 目指すべき姿と具体的な成果指標	③ 現状値 (単位)	④ 目標値 (単位)	⑤ ③と④との関係
A 自然共生社会の構築	A-1 生態系サービスの質・価値を高める	○ 動物の状況	コウノトリが複数ペア定着、繁殖する	コウノトリの定着個体数 (ペア・ホルダー)	2 (羽)	4 (羽) (ペア・ホルダー)
		○ 供給サービス ○ 調音サービス ○ 文化サービス ○ 森林資本				
	A-2 生態系サービスのストック量を増やす	○ 農地資本	れんこん、水稲の圃場にやさしい農業の普及 (エコファーマー・特別栽培・JAS有機)	圃場にやさしい農薬取組面積	5.0 (ha)	6.0 (ha)
		○ 漁業資本				
B 低炭素社会の構築	B-1 低炭素社会の構築	○ CO2排出抑制				
C 循環型社会の構築	C-1 循環型社会の構築	○ CO2排出抑制				
		○ リサイクル	農業生産物残渣の抑制	農業生産物残渣の活用またはれんこんの収穫量	1.0 (t)	1.5 (t)

2. 社会・経済的な成果指標

大分類	選択項目	① 概念	② 目指すべき姿と具体的な成果指標	③ 現状値 (単位)	④ 目標値 (単位)	⑤ ③と④との関係
D 経済的評価	D-0 財源が充実する	○ 獲得財源規模				
		○ 新ビジネスの規模				
	D-2 新しい市場・ビジネスを創出する	○ 産品の価値向上	嶋門市の認証制度の活用	コウノトリブランド認証件数	0 (件)	5.0 (件)
E 社会的評価	E-2 市民のアクティビティが高まる	○ 市民の行動変化	同上	同上	同上	
		○ 住民参加				
	E-3 コミュニティを強化する	○ ネットワークの状況				

設定した成果指標がSDGsのどのゴールに貢献できそうか、考えてみましょう！

【地域の将来ビジョン（相互作用）】

- ▶ 若者が定着し、環境保全と生産の担い手が確保されている。
- ▶ 地域の環境に誇りを持ち、保全に取り組んだり、保全活動を支援する市民が増えている。
- ▶ 消費者、企業、観光客など多くの主体が田圃の保全に関わり、その意思を実感する。

【必要な動きかけ】

- 地域農産物のシンボルとなる「コウノトリれんこん」のブランド化及び関連商品の開発、販売
- 親子、消費者が参加する観察会の実施
- この地域の田圃環境が農耕地の中で最も生物多様性が高いことを実証し、評価を高める
- ▶ 流通や観光関係企業との連携により、都市住民を対象としたエコツアーの企画・実施
- ▶ 生物多様性やコウノトリの野生復帰に必要な調査・研究チームを編成
- ▶ 活動を継続するために必要な資金確保のため「コウノトリ募金(仮称)」を設定
- ▶ 広く募金を集めるため、企業、マスコミ、金融機関と連携

【プロジェクト体系図】



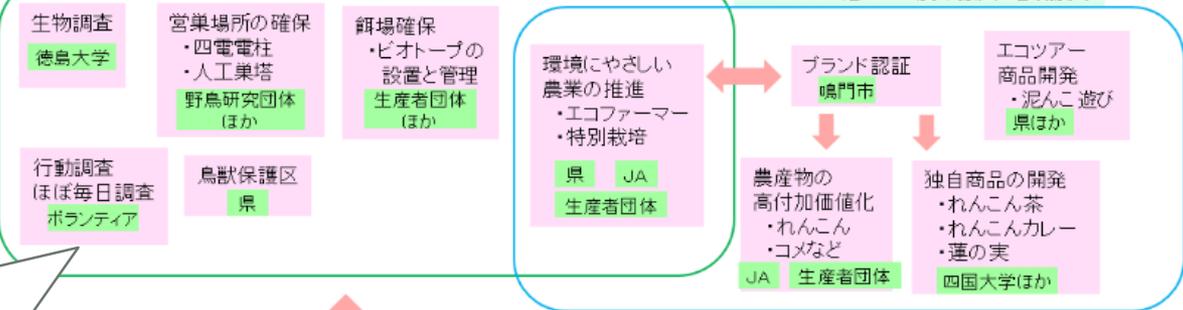
- 将来ビジョンを実現するための様々な働きかけ（取組）について、それぞれの取組の位置づけや関係性、関わる主体やステークホルダーを見える化する
- 将来ビジョンに向けて不足している主体や取組みを把握

徳島

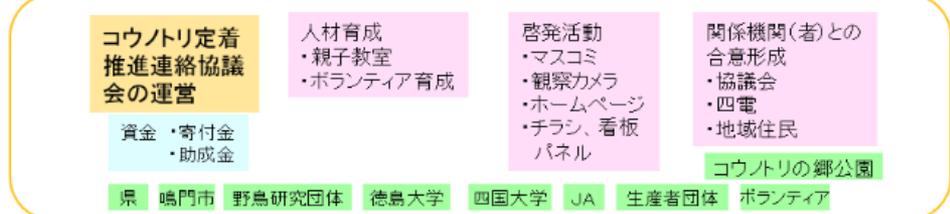
コウノトリが舞う郷土づくり
コウノトリと人が共存できる環境の創造

コウノトリの定着を推進

コウノトリを活かした農業振興・地域振興



永続的活動 ↑ 地域への愛着増大 ↓ 新たなブランド 産品 ↓ 収益増 寄付等の増加



コウノトリを活かす体制づくり

個別の取組が全体のビジョンにどう紐づいているのか、足りない取組みはないか、「見える化」して把握しましょう！

【プロジェクトスケジュール】



- 3つの柱の整備や、働きかけを具体化する個々の取組を、どれくらいの期間でこういった順番で進めていくのか、スケジュールに落とし込む
- 長期（数年～十数年）、短期（1年間）それぞれを作成し、進捗に応じて見直す

			2019年 1年目	2020年 2年目	2021年 3年目	2022年 4年目	2023年 5年目	将来ビジョン
プロジェクトを推進する仕組みづくり (3つの柱)	プラットフォームづくり (コウノトリの定着に向けた取組推進体制の構築)	餌場確保	■					
		営巣場所の確保	■					
		行動調査	■					
	自立のための経済的仕組み作り (コウノトリを活かした農業振興・地域振興)	生物調査			■			
		環境にやさしい農業の推進	■					
		農産物の高付加価値化			■			
		ブランド認証取得		■				
		エコツアー商品開発			■			
	人材育成 (コウノトリを活かす人材づくり)	独自商品の開発			■			
		人材育成	■					
啓発活動		■						
関係機関(者)との合意形成		■						
3つの柱に基づく活動等	コウノトリ定着推進連絡協議会の運営	■						
	市民・子供向け観察会の開催 映像の活用システムの構築、運用			■				

コウノトリが舞う郷土づくり
コウノトリと人が共存できる環境の創造

平成30年度活動計画（吉野川流域）

◎平成30年度の作業計画

A 多様な主体によるプラットフォーム作りに関する平成30年度の作業計画	
①	構成主体のうち民間団体の役割をより強化をすることを検討するとともに、連携して活動する組織を増やし、プラットフォームを充実強化する。4～2月
②	①の検討に資するため、先進事例の情報を収集、共有する。6～2月
③	HPやSNSを活用し、活動をPRするとともに、HP等に資金メカニズム構築に繋がるコンテンツを整備する。4～3月
B 自立のための経済的仕組み作りに関する平成30年度の作業計画	
①	「コウノトリれんこん」の販売促進・市場拡大に努めるとともに、「コウノトリブランド」を活用し資金メカニズムに繋げる手法や、地域創生ファンドなど安定的な資金確保の仕組みを検討する。6月～3月
②	農業者と商工業者を連携させ、加工品開発の検討、試作販売を実施する。6月～3月
③	エコツアー商品作りについて検討し、テスト実施する。8月～2月
④	①②③に資するための先進事例調査を行う。 6月～2月
C 人材育成に関する平成30年度の作業計画	
①	子供向け観察会実施や中学生の生物調査指導などに必要なスキルを身につけるためのプログラムを実施する。5月～3月
②	ビोटープ管理などの環境保全技術やコウノトリの個体管理に必要な足環装着技術、固定カメラによる行動記録技術など「コウノトリが舞う国土作り」に必要なスキルを身につけるためのプログラムを実施する。5月～2月
③	プラットフォーム運営スキルを身につけるためのプログラムを実施する。8月～2月
D その他の事項に関する平成30年度の作業計画	
①	ブランド認証制度の拡充検討 4～3月
②	特別栽培、エコファーマーの推進 4～3月

◎3カ年の事業の成果について（見込み）

平成30年度終了時点での成果（4月時点での見込み）	
・	コウノトリ1ペアが3年連続で繁殖に成功し、地域に常時数羽のコウノトリが生息するようになった。
・	活動に参加する主体が増加し、プラットフォームが充実強化された。
・	コウノトリブランドを活用した商品開発が活発に行われるとともに、協議会への資金運流の仕組みが構築された。
・	特別栽培やエコファーマーが推進され、多くの農家が取組むこととなった。
・	プラットフォームを運営する人材が育成され、観察会開催のスキルやビोटープ管理技術、足環装着技術を身につけた人材が増加した。
次年度以降の取組の継続見込み	
・	継続する取組み
・	基本的には、今年度の取組みを全て継続するが、内容・回数等は獲得する資金量によって制限される。
・	獲得予定の活動資金等
・	未定（協議中の協賛金等2件）

【事業戦略】



- 事業戦略とは、商品（サービス）の開発や販売において、6W3H（なぜ、誰のために、いつ、どこで、誰が、何を、どの程度、いくらで、どのように）を決めるもの
- マーケットインの視点を重視する。
- チェックリストで検討不足の事項を確認！

何を？
完全無農薬、有機栽培の〇〇米



どのように？
子ども向けの田んぼの生き物観察会と試食会をセットにしたモニターツアーで顧客開拓

誰に？
安全安心な食材を求める都心部の子育て中の主婦

確認項目	チェック項目	実行中	準備中	検討中	未検討
なぜその事業が必要か。何が問題なのか ※できていないわからないにチェックがつく場合は、「4.1 プロジェクト構想」のエコロジカルシンキングワークシートを見直してみましょう。	事業が必要な理由を簡潔・明確に説明できますか？ 何が問題で、なぜ問題が生じたのか、その理由を説明できますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
誰のための事業か。誰が困っているのか ※できていないわからないにチェックがつく場合は、「4.2.1 プラットフォームづくり」や「4.3.1 プロジェクト構想の体系化」の体系図を見直してみましょう。	問題によって困っているのは誰ですか？ 事業によって誰にどのような利益が生じるか説明できますか？ 直接的な受益者だけでなく、間接的な受益者や将来の受益者も考えられていますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
事業によってどの程度まで問題を解決するのか ※できていないわからないにチェックがつく場合は、「4.12 成果指標の設定」の成果指標シートや「4.3.2 計画・スケジュールの作成」を見直してみましょう。	いつまでに何をどこまで改善させるのか、目標は明確ですか？ 身の丈に合った目標になっていますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
誰が事業を行うのか。運営・実施体制をどうするのか (Who)	事業を行う上で関係者の役割や責任範囲は明確になっていますか？ 地域の協力は得られていますか？ 特定の個人に頼るシステムになっていませんか？ 将来の担い手は明確にイメージされていますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
事業戦略に関する事項 具体的に実行するものか (What)	①プラットフォームづくり どんなプラットフォームを構築するのか (What)	プラットフォームに期待する役割や成果は明確ですか？ プラットフォームに誰を組み込むべきか決まっていますか？(消費者、販売者、地方金融機関等)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	いつまでにどこまで構築するのか (When)	プラットフォームを構築するため、いつまでに何をやるか明確ですか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	どのようにして構築を進めるのか (How)	プラットフォームに組み込むべき主体に対してどんなメリットを提供できるのか説明できますか？ プラットフォームに組み込むべき主体に対してコミュニケーションを十分図っていますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
②自立のための経済的仕組みづくり	商品・サービスを購入しそうな人(たち)は想定できていますか？ 営業・宣伝をすることで新たに興味を持ってもらえそうな客層について考えられていますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

【PDCAシート】

- プロジェクトの進捗状況を「見える化」し、関係主体間で共有
- プロジェクトスケジュールを基に、長期と短期でPDCAをまわす。
- 進捗状況や課題をふまえ、柔軟に見直す。

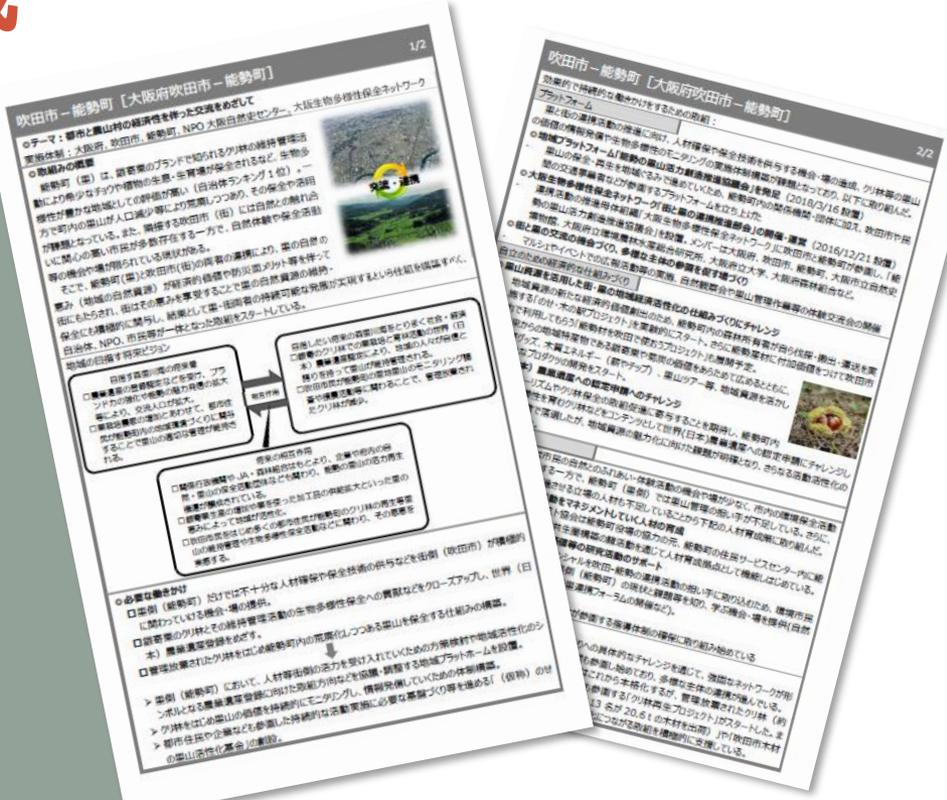


項目	事業計画（中長期）										目標年度	
	1年目 (2016年)	2年目 (2017年)	3年目 (2018年)	4年目 (年)	5年目 (年)	10年目						
プロジェクトを推進する仕組みづくり	計画	プラットフォーム構築イメージの検討 ● 先進事例の調査、PR ● ホームページ作成と活動PR	プラットフォーム構築イメージの検討と骨格作成(全体メンバー、運営資金管理部署、地域ブランド部署、テクノロジーチーム) ● ホームページの運用と活動PR	プラットフォームの定常化 ● 先進事例の情報収集・共有 ● HP・SNSの活用による活動PR								
	実績											
	課題											
自立のための経済的仕組み作り	計画	コウノトリ産卵巣の調査 ● 新設とPR、制度参加者の募集 ● HP開設、資金支援募集 ● 先進事例の調査、情報収集	コウノトリブランド商品票上げからの資金確保の仕組みづくりの検討 ● 「地域創生ファンド」など安定的な資金確保の仕組みづくりの検討 ● HPでの資金支援募集	プラットフォームの定常化 ● 加工法開発 ● エコファーマー検討 ● 先進事例調査								
	実績											
	課題											
人材育成	計画	コウノトリ産卵巣の調査 ● 先進事例の調査、情報収集	様々なスキルを身につけるためのプログラム ● プラットフォーム運営スキル ● 資金確保、管理スキル ● 「コウノトリが輝く産卵巣」に必要な専門スキル ● 子供向け観察会運営スキル	観察会スキルプログラム ● 農産物スキルプログラム ● 組織運営スキルプログラム								
	実績											
	課題											
地域に基づく活動	計画	● 運用(HPで公開)	映像の活用(HPで公開) ● 子供向け観察会の開催	ブランド認証制度の拡充検討 ● 特別栽培、エコファーマーの推進								
	実績											
	課題											
目指すべき姿と具体的な成果指標の達成状況	コウノトリの定着個体数(ペア+フッカー)	目標	-	4羽					6羽		コウノトリが産卵ペア定着、繁殖する	
	環境にやさしい農産物取組面積	目標	-	60ha					120ha		れんこん、水稲の環境にやさしい農産物の普及(エコファーマー+特別栽培+JAS有権)	
	農産物生産物残渣の活用したれんこんの収穫量	目標	-	150トン					240トン		農産物生産物残渣の抑制	
		実績		100トン								

前年度の課題や成果をふまえ、次年度以降の計画を柔軟に見直しましょう！

10地域の事例を掲載

- ・ 宮城県南三陸町
- ・ 神奈川県小田原市
- ・ 石川県珠洲市
- ・ 滋賀県東近江市
- ・ 大阪府吹田市・能勢町
- ・ 岡山県高梁川流域
- ・ 山口県樫野川流域
- ・ 徳島県吉野川流域
・ 福岡県宗像市
- ・ 佐賀県鹿島市



各地域の工夫点や苦労点が載っています！

「手引き」はここからダウンロードできます



環境省HP「つなげよう、支えよう 森里川海」

<http://www.env.go.jp/nature/morisatokawaumi/>

「手引き」はVer.1.1です。
ぜひ使っていただいて、苦言・提言をお寄せください！

**自然の恵みを生かした地域づくりに取り組み、
持続可能な社会をつくりましょう！**